

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

兵庫県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	夢前町立菅生小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	18
児童数	68	74	63	58	71	75	5	415	

研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりが目を輝かせ、自ら学ぶ意欲を持った児童の育成
 - 体験的な活動や課題解決学習を通して -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 3・4・5・6年生・総合
個々の児童の興味・関心に沿った学習内容・展開を工夫することにより、他の教科学習への意欲づけや発展的学習が可能のため。
- ・ 3・4・5・6年生・算数
個々の児童の理解状況に差が出やすい教科であるため。
- ・ 5・6年生・理科・図工・体育
専科・交換授業による教師の得意分野を生かし学習の質を高めるため。

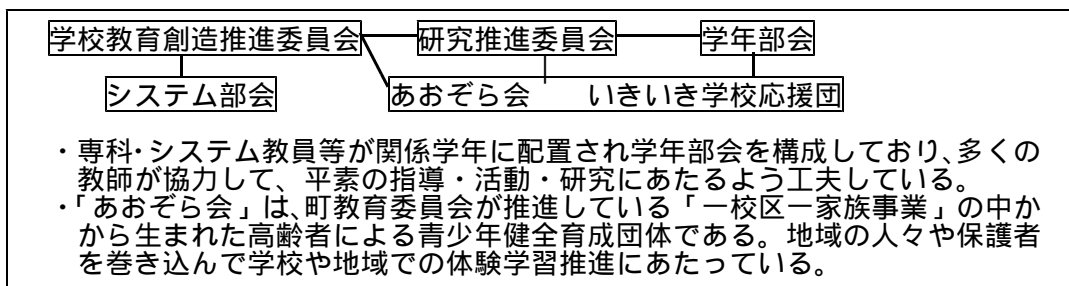
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 友だちと連帯し、一人ひとりの目が輝く総合的な学習の時間の創造 - 体験的な活動や課題解決学習を通して -</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと支え合いながら児童が主体となり生き生きと学習できる学習内容を創造することが、自ら学ぶ児童の育成に重要な役割を果たすのではないかと考え、様々な体験活動や課題解決学習を推進した。 ・ 児童が意欲的に取り組むためには、児童が興味・関心を持つ学習内容の創造とともに、各教科における基礎・基本の定着と学習したことを活用できる能力の育成が必要不可欠である。基礎学力の向上を図るために、個々の児童に即した指導方法・指導体制のあり方の研究を進めた。同時に、地域や家庭の理解や協力が重要と考え、連携強化の方策や地域の教育力の一層の活用方法について研究を進めた。 <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容毎に、学級内T・Tや学級解体・学年内少人数授業を実施し効果的な推進を図る。 ・ 家庭や地域との連携を図り、地域の教育力を生かした人とふれあいに学ぶ体験学習の場を多く設定した。 ・ 様々な調査方法、まとめ方・発表手段・方法の体験を通じて、自己学習力やコミュニケーション能力などの「生きる力」の育成を図った。 ・ 第4学年で、1学期に講師招聘研究授業、2学期に地区の家庭科研究会において授業を公開し、研究を深めた。 <p>イ 算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習内容を考慮し、T・Tや少人数授業を実施し、指導内容や方法の研究を進めた。 ・ 学習態度や意識の把握と共に学力状況を数値化し検討をした。 <p>ウ 理科・図工・体育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年同一内容による指導成果と選定教科の是非について研究した。
--------	---

	<p>エ 朝の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字検定(学年配当漢字で級検定用紙を作成。火は練習・金に検定、学年持ちあがりの漢字検定記録証に点数による色分け合格シールを貼付)・読書(水)・百マス計算(木・タイムを記録)の実施。
--	--

平成16年度	<p>テーマ 一人ひとりが目を輝かせ、自ら学ぶ意欲を持った児童の育成 - 体験的な活動や課題解決学習を通して -</p> <p>研究の見通し ・ 15年度の研究成果と課題を基に、自ら学ぶ意欲を持った児童の育成を一層推進する。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 総合的な学習の時間 ・ T・Tや少人数授業の効果的な推進。 ・ 家庭や地域との連携強化、地域の教育力の一層の活用のあり方。</p> <p>イ 算数科 ・ T・Tや少人数授業の一層効果的な進め方。</p> <p>ウ 教科担任制 ・ 専科・交換授業の推進。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

・ 総合的な学習の時間では、地域内外の多くの人々の協力を得て、様々な学習活動が展開できた。3・5・6年生では、ふるさとの「ひと・もの・こと」にふれ、人や自然、文化などへの関心や理解、地域への愛着が育ちつつある。

4年生では、教科と関連させて人権や環境問題などの課題学習に取り組み、様々な人とふれあいながら学習を進めた。その中で、視野や興味・関心の対象が広がり、生活に生かそうとする態度も見られるようになってきた。

どの学年の児童も、平素の生活環境にはない本物に出会い体験する中で、単なる知識では得られないものを、五感を通して学び取ることができた。

また、調べ方・まとめ方・発表の仕方なども友だちと協力しながら創意・工夫できるようになり、自ら学ぶ姿が見られるようになってきた。

・ 算数科では、学力状況把握のため、平成13年から学力検査(国語・算数)を全学年で実施している。学力を完全に表すものではないが、客観的に比較検討できる資料として個々の児童の指導や指導方法の改善に活用している。下の表は、6年生の3年間の正答率の変化を示したものである。

現6年生	平成13年度		平成14年度		平成15年度	
	全国	本校	全国	本校	全国	本校
国語	71	63	71	71	77	79
算数	76	62	75	76	75	77

6年生は、課題を抱える児童が多く、なかなか指導の効果が上がらなかった。5年生時の14年度より教科担任制で多くの教師がかかわったり、算数科で個に応じた継続的な指導を受けてきた。その結果、表のような学力の向上が見られるようになってきた。そのことを、児童は、「やり方が分かると、問題がどんどん解けて楽しい」と、アンケートに書いている。

このアンケートは、「勉強が好きですか」「好きな教科」など簡単なもので、3学期に実施した。結果は、表のようになっている。

(%)	好き	どちらかという好き	あまり好きでない	きらい
6年	13	64	18	5
3年	45	40	10	5

「好き」「どちらかという好き」を合わせると、80%前後になり、「分かる楽しさ」が、「勉強が好き」につながっていると考えられる。3年生のある児童は、学習に自信がなく九九も不確かであったが、T・Tによる授業時間内における重点的個別指導により、2桁×2桁の筆算が正確に早くできるようになった。その結果、「勉強が好き」になり、自信を持って学習に取り組めるようになってきている。このように、個々の児童の学力は、着実に向上し、学習時の反応や態度にも大きな変化が見られるようになってきた。

しかし、学年が上がり学習内容が難しくなるにつれ、勉強があまり好きでなくなる結果もでており、指導上の一層の工夫が必要と考えられる。

「好きな教科」では、どの学年も体育が一番で、二番目が算数である。やり方が分かっているならば、深く考えなくても直ぐに答えの出る教科という「考えることの苦手な」児童の姿を反映しているとも考えられる。

- 朝の学習の漢字検定は、漢字定着率の低い結果を受け、保護者への啓発も兼ねて昨年度から始めた取り組みである。今年も、週1回の練習で、満点での合格率も上がっている。百マス計算は、できる自信が速さと正確さに繋がり、算数科への意欲的な取組にも広がりつつある。また、短い時間ではあるが、読書時間の設定が、本にふれる機会となり、本好きな児童の増加に大きな役割を果たしている。昨年度、児童一人あたり35冊の(図書室の)本を読んでおり、本年度はさらに冊数の増加が見込まれている。

2. 今後の課題

- 総合的な学習では、限られた時間・指導者・資料等の中で、いかに効果的な学習や体験活動を展開できるかが大きな課題である。また、カリキュラムや指導方法の見直しなど常に心がけながら実践していくことが必要である。
- 学力検査の観点別状況では、全校的に「書く能力」が、全国平均よりやや低い結果が出ている。これは、算数が好きな理由ともつながり、じっくり考えて書く能力を向上させる指導内容の工夫が必要と考えられる。
- 授業中は、個別指導の結果一人で問題が解けるようになっても、検査になると結果が出ない児童がいる。学習以外の場面でも、自分に自信をもって活動できるように励ましや支援の仕方を工夫することが大切である。
- 個別指導などによる学力向上は成果が上がりつつあるが、学習全般への意欲や意識の継続困難な児童への対応が課題として考えられる。低学年からの複数指導などによる基本的な生活・学習習慣や態度の育成を、家庭との協力の上に定着させていくことが必要である。
- 国際化が進む中で、小学校での英語学習を総合的な学習の中に取り入れることが予想されるため、今後の研究課題として考えられる。
- T・Tや少人数授業を全学年で実施できる人員確保が、今後の重要な課題として挙げられる。これは、本校だけの問題ではなく学校教育全体の大きな課題であり、今後解決されることを期待したい。

学力等把握のための学校としての取組

- 観点別学力到達度診断(国語・算数) 年1回 12月又は1月末
年度の学習状況把握と個別指導に活用するため
- 算数科百マス計算 毎週木曜日 朝の学習時間
計算力の確実な定着を図るため
- 漢字検定 毎週金曜日 朝の学習時間
当該学年の漢字の定着を図るため

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度に、研究会開催予定(日時等詳細は未定)
HPへのフロンティアスクール関連の資料を掲載予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無